

脊髄損傷のサル ヒトiPSCで治療

慶大研究チーム成功

脊髄損傷で首から下が動
かなくなったサルを、様々
な細胞に変化できる人間の
iPSC細胞(新型万能細胞)
を使って治療することに、

岡野栄之・慶応大学教授ら
の研究チームが成功した。
神戸市で開かれている日本
分子生物学会で7日、発表

した。iPSC細胞を使った
治療はマウスなどで実現し
ていたが、霊長類では世界
初。

研究チームは、人間の皮
膚細胞に4種類の遺伝子を
導入してiPSC細胞を作
製。神経細胞の一手前の
細胞に変えたうえで、サル

の脊髄に投与した。サルは
十数日後ろ脚で立ち上が
り、約6週間後には歩き回
れるまでに回復。前脚の握
力も戻ったという。

岡野教授は「今後、より
安全性の高いiPSC細胞を
つくる方法を開発し、人間
へ投与する臨床研究を開始
したい」と話している。